

~世界で活躍する
ナガサキ・ユース代表団と学ぼう~

ワールドキャンプ

in Odawara

2019

2泊3日

8/19 月

8/21 水



昨年の様子

とても楽しかった!

改めて平和とは何だろう
と考えてみたいろいろな
考えが出てきた!

みんながいろいろな
考えを持っていて
おもしろかった!

戦時下の食事を食べ
て、身近に戦争の様子
を感じる事ができた

改めて核の怖さを
知った。学んだこと
をいろいろな人に伝え
たいと強く思った

※昨年の参加者の感想です

ナガサキ・ユース代表団って何?

長崎大学などが主催する人材育成プログラムの一つ。公募で選ばれた次代を担う若者が、平和問題について実践的に学び、国連等での会議に参加するなどし、自ら考え、行動する力を身に付けることを目的として国内外で活動しています。

開催場所 尊徳記念館 (小田原市栢山2065-1)

対象・人数 市内在住・在学の中学生・30人
※応募者多数の場合は抽選を行います

参加費 約300円(保険料)
※集合場所まで及び解散場所からの交通費は各自で御負担ください

締め切り 6月14日(金) まで

申込方法 中面の参加申込書に必要事項を記入し、次の方法で提出、またはホームページから申請してください。

- 1 直接小田原市役所総務課(4階)に提出する
- 2 郵送する(必着)
送付先:〒250-8555小田原市荻窪300番地
小田原市役所総務課総務係宛て
- 3 市ホームページから電子申請する
「2019 ワールドキャンプ in Odawara」で検索
または左のQRコードから



小田原市HPは
こちらから

キャンプの日程

※内容は変更になる場合があります

1日目

- 午前 集合・尊徳記念館
講話・グループワーク
代表団の平和・国際活動について学ぼう
- 午後 レクリエーション(グループビルド)
みんな仲良くなるよう
- 夜 ピザパーティー
尊徳記念館泊

2日目(加藤市長も参加★)

- 午前 フィールドワーク(バス移動)
市内戦争遺跡を巡る
- 午後 ワークショップ
自分たちで創る平和のまち
小田原を考えよう
- 夜 戦時下の食事体験(自炊)
すいとんを作って食べよう
尊徳記念館泊

3日目

- 午前 グループワーク
まとめ
- 午後 発表
解散・尊徳記念館

主催 小田原市
協力 小田原市教育委員会
問合せ 小田原市総務課
電話 0465-33-1291
FAX 0465-33-1663
メール som u@ city odaw ara kanagaw a.jp

(1) 日程

参加者は、原則、次の全ての日程に参加していただきます。都合が悪い場合は御相談ください。

		内 容 (予定) ※変更になる場合があります	食事有無	会場
8 月 19 日	午前	集合：9時10分 核の実相、国際活動について学ぶ 講師：ナガサキ・ユース代表団	昼：なし 弁当持参 夜：あり	尊徳記念館
	午後	レクリエーション（グループビルド）みんなと仲良くなろう ピザパーティー（自炊） 講師：おだわら自然楽校		
20 日	午前	フィールドワーク（市内戦争遺跡を巡る）※バス移動 講師：戦時下の小田原地方を記録する会	朝：あり 昼：あり 夜：あり	
	午後	ワークショップ（自分たちで創る平和のまち小田原を考えよう） 講師：ナガサキ・ユース代表団 戦時下の食事体験（自炊）すいとんを作って食べよう 講師：小田原市食生活改善推進団体		
21 日	午前	グループワーク（まとめ）講師：ナガサキ・ユース代表団	朝：あり 昼：あり	
	午後	成果発表 講師：ナガサキ・ユース代表団 解散：15時30分頃		

(2) 申し込み後の流れについて

①申込み

②総務課から参加決定の可否通知の送付（6月末までに）

※募集状況によっては再募集を実施しますが、再募集後にお申込みいただいた場合には、順次発送します

③総務課からキャンプの案内・しおり等の送付（8月上旬までに）

④キャンプ当日参加

(3) 個人情報の取り扱いについて

本事業は、平和啓発のため、次代を担う若者から多くの世代に広く発信し、継承していくことを目的としています。そのため、参加が決定した際には、小田原市が提供を求める次の個人情報を使用目的にあるように使用・活用することについて、御同意くださいますようお願いいたします。

提供を求める個人情報	使用目的
1 参加申込書の記載事項 ・生徒氏名 ・保護者氏名 緊急時連絡先	・名簿作成 ・広報紙及び市ホームページ等への掲載 ・新聞及びタウン誌等への掲載 ・市が事業報告で作成する資料への掲載 ・緊急対策
2 食物アレルギー及び健康情報	・事業実施中の生徒の健康管理及び指導
3 参加者の写真（個人・集合）・映像 ・事前学習・宿泊学習・事後学習・ 成果発表会で撮影した写真	・広報紙及び市ホームページ等への掲載 ・新聞及びタウン誌等への掲載 ・市が事業報告で作成する資料への掲載 ・講師のホームページ等への掲載 ・次年度以降のチラシ等への掲載
4 参加者のコメント ・本事業参加に対するコメント ・顔写真	・広報紙及び市ホームページ等への掲載 ・新聞及びタウン誌等への掲載 ・市が事業報告で作成する資料への掲載 ・講師のホームページ等への掲載 ・次年度以降のチラシ等への掲載
5 その他	新聞社等取材されることがあります

THE CHALLENGE: REPORT OF YOUTH MEMBERS

「ナガサキ・ユース代表団」の挑戦



2018 MEMBERS ナガサキ・ユース代表団 第6期生メンバー

二藤 恭輔 (長崎県立大シソーラポルト校 国際情報学部 4年)、 瀧井 謙 (長崎純心大 学 人文学部 3年)、 孫 明悦 (長崎県立大 学 国際情報学研究科 2年)、 中島 大樹 (長崎 大学 多文化社会学部 3年) 永江 早紀 (長崎 大学 多文化社会学部 3年)、 原田 悟奈 (長崎 大学 多文化社会学部 3年)、 福井 教仁 (長崎 大学 多文化社会学部 3年)、 三浦 大輝 (サセックス大 学 環境開発学 部 学部定) (2018年4月現在)

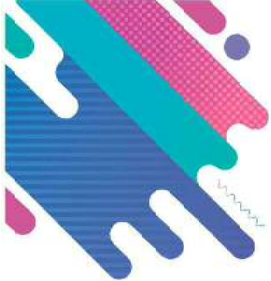
BEFORE DEPARTURE (出発前)

多角的に学ぶ

三浦 大輝



渡航前の1月から4月までNPT再検討会議第2回準備委員会への出席に向けた様々な準備活動を行いました。第一線で活躍されている専門家(国際政治・歴史・NGOの連携・マスメディアなど)をお出さし、多角的な視点から核問題を考え、知識を深めました。また、広島や長崎の被爆の歴史を改めて学んだほか、前年度のNPTでの各国の声明文を読み、核問題に対する立場を知りました。どの勉強会も刺激的で、現地で活動に活かすことができました。



ACTIVITIES IN GENEVA (ジュネーブでの活動)

外交の最前線へ

孫 明悦



4月23日から5月4日まで2020年NPT再検討会議第2回準備委員会を傍聴しました。会議では核軍縮・核不拡散・原子力の平和利用について、各国政府から声明が述べられ、それぞれの発言から、国の立場を見ることができました。今回はロシア、アメリカ、シリア政府代表団の議論が白熱し、複雑な国際情勢とその緊張感が感じられました。

また、政府代表だけではなく、若者も含めたNGOの代表も意見を述べました。普段は直接関わることでできない方々と話すこともでき、本やニュースだけでは勉強できない内容を学ぶことができました。国際情勢を学び、実際に会議を傍聴したこと、世界と繋がることも貴重な経験となりました。

対話を通して感じ、考える

中島 大樹



今回、私たちは15カ国の政府の方と対話し、主に安全保障政策や核兵器禁止条約についてお聞きしました。対話を通して、核の傘の国と非核兵器国の姿勢が特に印象的でした。核の傘の国は核のリスクがある限り、核抑上に頼るとして断固とした立場を取っていました。一方

で、いくつかの非核兵器国はNPT自体にあまり意味を見出していないように思いました。そのため、私の予想とは違い、核軍縮を強く推し進めるといふより、核兵器国の軍縮に対して失望感を抱いていたように感じました。

このような各国の声明文だけでは分からない部分を知ること、核兵器廃絶に向けてなにが必要かを改めて考えることができました。



国連でプレゼンテーション!

永江 早紀



長崎から来た若者として、世界に発信したかったこと、それは『核兵器』を考えるときに、国連は関係ないということでした。

私たちは、73年前に起きたことは広島や長崎、日本だけの歴史ではなく、地球の歴史として捉えることが大事なのではないかと考えました。今、この時も、私たちは約14,500発の核兵器が存在するこの地球で生活しています。あの日の出来事を、『日本が』ではなく『私たち人類が』その被害にあつたのだという認識を、プレゼンテーションを通して発表しました。当日は各国からNGOの方々や多くの若者にも来ていただき、多くの方に私たちの考えを伝えることができました。これからも、この想いを発信しつづけていきます!



長崎の若者のリアルな声を！ 工藤 恭綺



「若者から伝えられること」をテーマにショートフィルム（短編動画）を作成しました。長崎に住む10・20代をここにおける若者と定義し、彼らの核や核廃絶に対する思いや、核の非人道的性に対する認識を来場者に伝え、共有し、そして考えてもらいたいという趣旨がこの動画に込められています。現在世界に存在する核兵器数をBB弾で視覚的に体感できるように工夫したり、被害者の方の想いを組み入れました。

当日は、政府関係者や他国からの学生など多くの方々にご来場いただき、「長崎の若者でも核廃絶が強い」という言葉があるとは予想していなかった。「被害者の方のメッセージを聞いて、核の恐ろしさを改めて感じた」などの様々な声を拾うことができました。また、上野当日は来場者からのフィードバックを用いたアート作品も作成しました。



作成したアート作品「希望の木」

国際機関に学ぶ！

国を越えた平和の構築 原田 侑奈



渡航中、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）、ICRC（赤十字国際委員会）、WHO（世界保健機関）の3つの国際機関を訪問し、それぞれ教育と平和、医療と人道、保険と人権の関係について学びました。

印象的だったのは、彼らが行っている「国」の政治に関われない、「個人」に焦点を置いた活動です。たとえばUNESCOでは、平和教育を「人の心の中に平和の響を築く」とし、国策に偏らない教育を目指していると同じました。ひとり一人、個人で平和を築くこと、私は、これがUNESCOの考える平和だと考えました。

国策や国益だけで議論される核兵器問題も「個人」に注目すると、その非人道性や人権侵害の歴史がよく分かります。国際機関で学んだ「国境をこえた平和」は、核兵器廃絶を訴える上でも活かしていきたいです。



WHOの外観

平和教育の出前授業海外実践！

～ジュネーブ編～ 酒井 環



4月25日、28日にジュネーブ日本語補習学校にて、（平和教育の出前）授業を行いました。子どもたちが、73年前の破壊の真相や現代の核問題を知り、考えることに照準を置き授業を構成しました。

「73年前の出来事は、自分たちとどう関係しているのかな？」という質問をした際、「自分のおばあちゃんが戦争で辛い思いをしたから私にも関係があると思う」や「お父さんが国連で武器に関する仕事をしてくるから関係があると思う」などの答えをもらいました。授業を通して、子どもたちは核兵器問題を他人事ではなく、自分事だと感じているようでした。

今回の授業実践で、ジュネーブに専ら子どもたちだからこそその考えを聞くことができ、真剣に考える子どもたちの姿に、私たち自身が刺激を受け、とても貴重な時間となりました。

国境を超えていく若者の思い 福井 敦巳



会議には各国から多くの学生が参加していました。7つの団体の協力の下、会議の中で若者代表として声明文を発表しました。

最も印象に残ったことは、「ヒロシマの思いが世界に共有されている」ということです。異なる文化や価値観を持つ学生との議論の中で、「ヒロシマの思いを組み入れたい」という声、核兵器に安心することへの不安、一向に進まない核廃絶に対する苛立ちなど、被爆者や核兵器に対する世界の若者の想いを感じました。

このように、声明文の作成を通して、「原爆の記憶」を広島や長崎にとどめるのではなく、国境を超えて「人類の記憶」にすることが大切だと感じました。国境を越えて、核廃絶への想いを共有する架け橋になっていきたいと思えます！



それぞれの想いをツナグ

三浦 大輝

帰国後、私たちは「多くの人への経験の共有する」を念頭に活動しています。活動報告会をはじめ、図書館での写真展の開催や全国の教育機関への出前講座を行っています。他にも原爆資料館でのアート作品の展示や会議期間中に行ったプレゼンの国内実施など、絆を形として残したり、多くの人に伝えたりする活動を実施しています。私たちがジュネーブで、何を見て何を感じたのか、それらの経験を共有する中で、より多くの方の核兵器問題への関心を高めていきます！

AFTER THE TRIP (帰国後)

